

糖尿病・代謝内科

1. 目的と特徴

「糖尿病があっても糖尿病をもたない人と同じ人生が送れるよう、医療の手をさしのべる」というコンセプトのもとに、東京女子医科大学糖尿病センターは、昭和50年7月に、糖尿病に関するすべてを診療できる施設をめざして設立され、以後全国の糖尿病診療の先駆的役割を果たしてきた。糖尿病・代謝内科は糖尿病センターの内科部門である。糖尿病センターは糖尿病・代謝内科と糖尿病眼科を有する。

糖尿病センターでは、糖尿病・代謝内科の内科医と糖尿病眼科の眼科医が緊密に連携し、多くの職種のコメディカルスタッフとともに患者さんを中心としたチーム医療を展開し、いかなる年齢であろうとも、糖尿病を中心とした代謝疾患の初期教育から関連の重症合併症まで、またそれらがいかに重積していようとも、「患者さんの求めるトータルケア」の実践に努めている。

糖尿病専門医療施設としてわが国最大規模を誇る当センターは、糖尿病専門医を目指す熱意ある医師に、充実した臨床研修の場を提供してきた歴史をもつ。これからも大いに提供したい。

2. 指導スタッフ

主任教授 内瀬安子
教授 高橋良当（兼）、佐倉 宏（兼）、佐藤麻子（兼）
准教授 岩崎直子、馬場園哲也、宇治原典子（兼）
講師 中神朋子、尾形真規子、柳澤慶香、三浦順之助

3. 研修施設

基幹施設： 東京女子医科大学病院糖尿病センター

研修協力施設：東京女子医科大学東医療センター、東京女子医科大学八千代医療センター、東京女子医科大学成人医学センター、至誠会第二病院、城西病院、西山堂病院、西山堂慶和病院、済生会川口総合病院、海老名総合病院、板橋総合病院、立正佼成会附属中野佼成病院

4. 研修カリキュラム

A：一般目標

豊かな人間性、幅広い見識、社会に貢献する使命感と責任感を持ち、糖尿病を中心とした代謝疾患の診療に従事できる医師となるために、内科医および糖尿病専門医としての診療に必要な基礎知識、技術を習得し、慢性病としての糖尿病診療に特に必要となる患者を思いやる温かい心と診療態度を身につける。

B：具体的目標

- 1) 一般内科診療に必要な基礎知識を習得し、臨床に応用する。
- 2) 糖尿病を中心とした代謝疾患の診療に必要な知識を習得し、臨床に応用する。
- 3) 必要に応じて他の専門診療科に適切に紹介できる。
- 4) コメディカルスタッフと協力し、チーム医療のもとに患者の問題点を解決する。

- 5) 患者・家族の訴えを正しく理解し、患者の苦痛を受けとめる。
- 6) 患者・家族に病状・治療方針を適切に説明できる。
- 7) 医療安全管理の基本を説明し、正しく実践できる。
- 8) クリニカルパスを理解し、適切で無駄のない検査・治療計画を立てられる。
- 9) 個人情報保護法を理解し、正しく実践できる。
- 10) 治療方針について上級医、指導医と相談できる。
- 11) 医療記録（診療録、病歴要約など）、診断書、報告書を遅延なく記載する。
- 12) 医局の症例検討会で報告し、討論に参加する。
- 13) 最新の医学・医療情報を常に収集し、モーニングレクチャーで発表する。
- 14) 学会に参加し、発表し、次の研究企画を立てる。研究成果を論文として発表する。
- 15) 患者・家族・一般向けの糖尿病教育活動に積極的に参加し、支援する。
- 16) 下記に掲げる認定医および専門医申請資格を得る。
 - ①日本内科学会認定内科医申請資格（最短で卒後4年目）
 - ②日本糖尿病学会糖尿病専門医申請資格（最短で卒後7年目）
 - ③日本内科学会専門医申請資格（最短で卒後7年目）
 - ・認定内科医、認定内科専門医 <http://www.naika.or.jp/seido.html>
 - ・糖尿病専門医 <http://www.jds.or.jp/modules/specialist/>

C：外来診療

新患が年に約 2,600 名、定期通院患者が約 12,000 名であり、さまざまな病態の患者を管理している。外来担当医は約 30 名である。

後期研修医は初診患者の予診を月に数回行う。また、初期研修医および1年目の後期研修医は教授診察の補助業務を行う。

D：病棟診療

病棟は糖尿病センター専属の建物の4階と5階にそれぞれ1病棟ずつある。内科・眼科合わせてこの2病棟、58床（うち眼科12床）を用い、糖尿病センター病棟固有の透析ユニット（透析5床）を有する。

年間約 1,200 名の入院患者数、在院日数約 14.5 日、透析導入年間 50 余件、眼科手術年間 600 余件数の入院患者の診療・管理を、病棟長1名、病棟主任2名、眼科病棟長1名で行っている。卒後7-9年目の指導医のもとに、数名の後期研修医および1名の初期研修医が班を形成して、患者診療を行う。週に1回の教授回診および病棟長回診がある。また、腎（疾患）回診、神経（疾患）回診、1型糖尿病回診も週1回ないし適宜おこなわれている。

入院患者は、

- 約半数が、透析導入、足壊疽、硝子体手術、白内障手術、脳梗塞、感染症などの糖尿病性合併症治療目的の患者である。
- 残りの約半数が、教育入院、ケトアシドーシスなどの血糖コントロール目的の患者である。
- 眼科手術の患者には、眼科医と内科医の「2名主治医体制」で診療を行う。

E：年次別研修スケジュールと研修内容概略

年次	卒後 年次	身分	病棟	外来	関連病院 への派遣	資格
第1年次	3年	後期 研修医	病棟担当医	教授外来補助 および予診		
第2年次	4年		病棟担当医・ 初期研修医の指導	予診	この期間内 の1～2年	認定内科医 申請資格
第3年次	5年		病棟担当医・初期研修医 および後期研修医(下級)の 指導			
第4年次	6年					
第5年次	7年		病棟担当医・研修指導医・ 他科コンサルテーション	予約外 診療担当		糖尿病専門医 申請資格・ 内科専門医 申請資格

F：週間予定

	8:00～ 8:30	8:30～9:00	9:00～ 12:00	12:00～ 13:00	13:00～ 17:00	17:00～
月	クルブス (若手病棟 医のための 勉強会)な ど	入退院報告、 医局内連絡報告、 モーニング レクチャー	11:00～ 腎回診		13:30～ 教授回診	症例検討会(月1回)、糖尿 病センター連絡会(月1回)、 学会発表予演会、その他
火			病棟・外来		病棟・外来	
水					13:30～ 病棟長回診	内分泌・代謝の会(月1回)、 腎グループ勉強会(週1回)、 他専門グループ勉強会(適 宜)、外部講師による講演 会
木					病棟・外来 神経回診 (月1回)	
金						
土						

5. 医療練士研修(後期臨床研修)修了後の進路

後期臨床研修修了後、糖尿病センター助教として就職を希望するものは、主任教授およびスタッフによる協議により、本学病院の定める定員範囲内でその採否を決定する。その後は本人の希望により海外留学、国内留学が可能であり、糖尿病および関連領域の基礎的・臨床的研究に従事し、学会発表・論文作成を行う。

6. 大学院・医学博士

後期臨床研修を行いながら、大学院課程へ進学することも可能である。研究は主任教授およびスタッフの指導のもとに行う。大学院課程に進んだ場合は、1年間は診療業務から離れて研究に専念することが可能である。通常大学院課程4年次終了後に論文審査を受け、医学博士が授与される。

大学院課程に進まない場合も、主任教授およびスタッフの指導のもとに論文をまとめることにより、医学博士の学位の取得が可能である。

7. 問い合わせ先

〒162 - 8666 東京都新宿区河田町8 - 1

東京女子医科大学 糖尿病センター内科

医局長 花井 豪

TEL : 03 - 3353 - 8111 (内線 27117) FAX : 03 - 3358 - 1941

e.mail : hanai@dmc.twmu.ac.jp

東京女子医科大学 HP アドレス : <http://www.twmu.ac.jp>

東京女子医科大学糖尿病センター HP アドレス :

<http://twmu-diabetes.jp/>

見学はいつでも可能であり、医局長に連絡ください